

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 29日

事業所名:タートル体力運動能力開発ラボ
TRTLE KIDS

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	2 職員の配置数は適切である	1	3	急な休み時に臨機応変に対応出来るよう日頃から職員間で話し合っている。休みの時はパート間で休みの交代などを行っている	活動は可能であるが、少しギリギリの状態。昨年同様職員募集を行っている。午前の児童を増やす際増員が必要。急な欠員に対応が出来ない場合がある。今後増員予定
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		制作と体操で空間を分けることが出来ている	段差があったり、では入り口が狭い箇所があり完全バリアフリーではない
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		日々の清掃を心掛け行っている。毎日消毒・清掃を行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3			今年からコンサルタントが介入し適宜アドバイスをもらっている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		職員一人ひとりに学んでもらいたい事を聞き取り必要に応じて研修への参加の声掛けを行っている。積極的に参加している。	児童発達に関する研修がもう少し増えてもいいと思う。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		月1回職員内で会議を開き個別支援について話し合い、方向性を共有している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4		週ごとに担当を割り振り責任を持って行っている。	半月前には翌月の活動内容を話し合い慌てないように段取り等行っている。急な変更になってしまっても臨機応変に対応出来るよう柔軟性を持って取り組んでいる。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		SNSやインターネットから新しい情報を取り入れている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	3	1		小集団で活動する時間が多く、個別の時間がとりにくい。その場合はより少人数の午前中に来てもらうなどの工夫は可能な限り行っている
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		こまめに話し合いを行っている	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		小さな気付きでも報告し合ったりHUGの記録に残すように心掛けている。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4				

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			
--	----	---------------------------------------	---	--	--	--

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1		もう少し関わる機会があってもいいのでは…？
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		こちらから伝えるよう心掛けている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		今後、学童の子ども達との交流を計画予定
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1	定期的にパンフレットを渡したり親子で出来る事をお伝えしている。	保護者会等への参加が少なく、機会が少ない。必要なトレーニングはHUGに記載するなどの工夫を行っている	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		年に1回保護者会を開催している。参加者が少なくなってしまう為、参加しやすいような内容を考え開催している。	保護者会を開催しているが集まりが悪い為、趣向を変えて体操お披露目会と名目し1ヶ月間開放し保護者様のご都合に合わせて来所してもらいそ際に色々とお話を伺うようにしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4			
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個人データは持ち出さないよう徹底している。	鍵付き書庫で厳重に保管している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	隣接するゆう倶楽部さんとイベント等と一緒に行う事で交流を深めている。地域住民との関りは少ないが、同じ施設の高齢者と触れ合う機会はある。	来年度より会社組織全体でイベントが行えられるよう管理者中心で取り組みを勧めている

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		定期的に行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		消防署と連携を図り消火活動訓練を行ったり、定期的に自主的に訓練を行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1		ヒヤリハットがあっても記載することが少ない
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		虐待防止に関する研修には参加し、学んできた事を職員会議の時に報告し共通認識出来るよう周知している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			